

往生絵巻

芥川龍之介

青空文庫

わらへ

童 ほふし やあ、あそこへ妙な法師が来た。みんな見ろ。みんな見ろ。

すしうり

鮎売の女 ほんたうに妙な法師ぢやないか？ あんなに金鼓ごんぐを

たたきながら、何だか大声に喚わめいてゐる。……

まきうり おきな

薪売の翁 わしは耳が遠いせゐるか、何を喚くのやら、さつぱり

わからぬ。もしもし、あれは何と云うて居りますな？

はくうち

箔打の男 あれは「阿弥陀あみだぶつ仏ぶつよや。おおい。おおい」と云つて

ゐるのさ。

薪売の翁 ははあ、——では氣違ひだな。

箔打の男 まあ、そんな事だらうよ。

なうり おうな

菜売の媪 いやいや、難ありがた有おしやうにんい御上人わかしかも知れぬ。私は今まの間

に拝んで置かう。

鮎売の女　それでも憎々しい顔ぢやないか？　あんな顔をした

御上人が何処どこの国にゐるものかね。

菜売の媪　勿もつたい体ない事を御云ひでない。罰ばちでも当つたら、どう

おしだえ？

童　氣違ひやい。氣違ひやい。

五位ごゐの入道にふだう　阿弥陀仏よや。　おおい。　おおい。

犬　わんわん。わんわん。

物もの詣まうでの女房　御覧なさいまし。可笑をかしい法師が参りました。

その伴つれ　ああ云ふ莫迦ばかもの者は女と見ると、悪戯いたづらをせぬとも限りま

せん。幸ひ近くならぬ内に、こちらの路へ切れてしまひませう。

鑄物師いものし

おや、あれは多度の五位殿ぢやないか？

水銀みずかね

を商ふ旅人 五位殿だか何だか知らないが、あの人が急に

弓矢を捨てて、出家してしまつたものだから、多度では大変な

騒ぎだつたよ。

青侍あをざむらひ

成程五位殿に違ひない。北の方や御子様たちは、さぞ

かし御歎きなすつたらう。

水銀を商ふ旅人 何でも奥方や御子供衆は、泣いてばかり御出で

だとか云ふ事でした。

鑄物師 かし妻子つまこを捨ててまでも、仏門に入らうとなすつたの

は、近頃健気けなげな御志だ。

干魚ひうをを売る女 何の健気な事がありますものか？ 捨てられた妻

子の身になれば、弥陀仏でも女でも、男を取つたものには怨み
がありますわね。

青侍 いや、大きにこれも一理窟だ。ははははは。

犬 わんわん。わんわん。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

馬上の武者 ええ、馬が驚くわ。どうどう。

櫃ひつをおへる従者ずさ 気違ひには手がつけられませぬ。

老いたる尼 あの法師は御存知の通り、殺生せつしやうず好きな悪人でした

が、よく発ほつしん心したものですね。

若き尼 ほんたうに恐しい人でございました。山狩や川狩をする

ばかりか、乞食とほやなぞも遠矢とほやにかけましたつけ。

手に足駄あしだを穿はける乞食 好いい時に遇あつたものだ。もう二三日早か

つたら、胴どうなか中に矢の穴が明あいたかも知れぬ。

栗胡桃くるみなどを商ある主じ どうして又ああ云いふ殺さつ伐ばつな人が、頭あたまを剃そる氣になつたのでせう？

老おいたる尼に さあ、それは不思議ですが、やはり御み仏ほとけの御おん計はからひでせう。

油あぶらを商ある主じ 私わたしはきつと天狗てんこうか何なにかが、憑ついてゐると思おもふのだがね。

栗胡桃くるみなどを商ある主じ いや、私は狐きつねだと思おもつてるのさ。

油あぶらを商ある主じ それでも天狗てんこうはどうかすると、仏ぶつに化まけると云いふぢやないか？

栗胡桃などを商ふ主 何、仏に化けるものは、天狗ばかりに限つた事ぢやない。狐もやつぱり化けるさうだ。

手に足駄を穿ける乞食 どれ、この暇に頸くびの袋へ、栗でも一ぱい盗んで行かうか。

若き尼 あれあれ、あの金鼓ごんぐの音ねに驚いたのか、鶏とりが皆屋根あがへ上りました。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

釣つりをする下衆げす これは騒々さわしい法師が来たものだ。

その伴つれ どうだ、あれは？ 跛びの乞食あがが駈かけて行くぜ。

牟む子をししたる旅の女 私わたしはちと足が痛いたうなつた。あの乞食あがの足あしでも借かりたいものぢや。

皮子かはごを負へる下人　もうこの橋を越えさへすれば、すぐに町でござ

ざいます。

釣をする下衆　牟子の中が一目見てやりたい。

その伴　おや、側見わきみをしてゐる内に、何時いつか餌をとられてしまつ

た。

五位の入道　阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

鴉からす　かあかあ。

田を植うる女　「時ほととぎす　鳥よ。おれよ。かやつよ。おれ泣きてぞ

われは田に立つ。」

その伴　御覧よ。可笑をかしい法師ぢやないか。

鴉　かあかあ。かあかあ。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

暫時ひととき人声なし。松風の音 こうこう。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

再び松風の音 こうこう。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

老いたる法師 ごぼう御坊。御坊。

五位の入道 みども身共を御呼びとめなすつたかな？

老いたる法師 いか如何にも。御坊は何処へ御行きなさる？

五位の入道 西へ参る。

老いたる法師 西は海ぢや。

五位の入道 海でもともと大事ござらぬ。身共は阿弥陀仏を見奉

るまでは、何処どこまでも西へ参る所しよぞん存ぢや。

老いたる法師　これは面妖めんえうな事を承るものぢや。では御坊は阿

弥陀仏が、今にもありありと目まのあたりに、拜ませられると御
思ひかな？

五位の入道　思はねば何も大声に、御みほとけ仏の名なぞを呼びは致さ

ぬ。身共の出家もその為でござるよ。

老いたる法師　それには何か仔細しさいでもござるかな？

五位の入道　いや、別段仔細なぞはござらぬ。唯一をととひ昨日狩の帰り

に、或講師の説法を聴ちやうもん聞したと御思ひなさい。その講師

の申されるのを聞けば、どのやうな破戒の罪人でも、阿弥陀仏

に知遇ちくうし奉れば、浄土に往かされると申す事ぢや。身共はその時

体中の血が、一度に燃え立つたかと思ふ程、急に阿弥陀仏が恋
しうなつた。……………

老いたる法師 それから御坊はどうなされたな？

五位の入道 身共は講師をとつて伏せた。

老いたる法師 何、とつて伏せられた？

五位の入道 それから刀を引き抜くと、講師の胸さきへつきつけ

ながら、阿弥陀仏の在処ありかを責め問うたよ。

老いたる法師 これは又滅相な尋ね方ぢや。さぞ講師は驚いたで
ござらう。

五位の入道 苦しさうまなこに眼を吊り上げた儘、西、西と申された。

——や、とかうするうちに、もう日暮ぢや。途中に暇を費して

ゐては、阿弥陀仏の御前おんまへも畏れおそ多い。では御免ごめんを蒙かうむらうか。

——阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

老いたる法師 いや、飛んだ物狂ひに出合うた。どれわしも帰るとしよう。

三度みたび松風の音 こうこう。更に又浪の音 どぶりどぶり。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

浪の音 時に千鳥の声 ちりりちりちり。

五位の入道 阿弥陀仏よや。おおい。おおい。——この海辺うみべには

舟も見えぬ。見えるのは唯浪ばかりぢや。阿弥陀仏の生まれる

国は、あの浪の向ふにあるかも知れぬ。もし身共みどもが鵜うの鳥なら

ば、すぐに其処へ渡るのぢやが、……しかしあの講師も阿弥陀

仏には、くわうだいむへん 廣大無辺の慈悲があると云うた。して見れば身共が大声に、御仏の名前を呼び続けたら、答位はなされぬ事もあるまい。されずば呼び死しにに、死ぬるまでぢや。幸ひ此処に松の枯木が、二股に枝を伸ばしてゐる。まづこの梢に登るとしようか。——阿弥陀仏よや。おおい。おおい。

再び浪の音 どぶりどぶん。

老いたる法師 なぬかめ あの物狂ひに出合つてから、もう今日は七日目ぢや。何でも生しやうじん身の阿弥陀仏に、御眼にかかるなぞと云うてゐたが。その後は何処いづくへ行き居つたか、——おお、この枯木の梢の上に、たつた一人登つてゐるのは、紛まぎれもない法師ぢや。御坊ごぼう。御坊。……返事をせぬのも不思議はない。何時いつか息が絶

えてゐるわ。餌袋ゑぶくろも持たぬ所を見れば、可哀さうに餓死うゑしんだと見える。

三度波の音 どぶんどぶん。

老いたる法師 この儘まま梢まに捨てて置いては、鴉の餌食にならうも知れぬ。何事も前世の因縁ぢや。どれわしが葬まううてやらう。――や、これはどうぢや。この法師の屍骸しがいの口には、まつ白しろな蓮れん華げが開いてゐるぞ。さう云へば此処へ来た時から、異香いかうも漂ひらうてはゐた容子ようすぢや。では物狂ものぐるひと思うたのは、尊たうい上しやう人にんでゐらせられたのか。それとも知らずに、御無礼を申したのは、反かへす反かへすもわしの落度らくどぢや。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

(大正十年三月)

青空文庫情報

底本：「現代日本文学大系43芥川龍之介集」筑摩書房

1968（昭和43）年8月25日初版第1刷発行

入力：j.utiyama

校正：earthian

1998年12月28日公開

2004年2月18日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

往生絵巻

芥川龍之介

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>